

**エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た
遺跡整備計画の学際的研究**

吉村 作治

(早稲田大学・理工学術院・教授)

【研究の概要等】

ギザの大ピラミッドなどを含み、ユネスコの世界遺産として登録されているエジプトで最も重要な遺跡群の一つであるメンフィス・ネクロポリスは、その重要性にもかかわらず、様々な遺跡劣化の問題が表面化しつつあり、整備計画の必要性が高まっている。本研究はメンフィス・ネクロポリスの遺跡整備計画(Site Management Plan)の策定を目的とし、それに向けた保存科学、地質学、観光学、考古学、建築史学の各方面から調査を行なう。本研究では「遺跡の重要性の理解」、「将来的に影響を及ぼす要素」、「方針の策定」という主に3つの行程を経て、メンフィス・ネクロポリスの遺跡整備計画の策定を目指す。

【当該研究から期待される成果】

まず、「遺跡の重要性の理解」のためにメンフィス・ネクロポリスにおけるこれまでの調査研究史の編纂、踏査、人工衛星画像の解析、測量、物理探査などを行い、次に、新たなインフラ整備や観光開発、遺跡整備、地質、地域住民の活動などの「将来的に影響を及ぼす要素」について保存科学、地質学、観光学の観点から調査を行なう。最終的には、ヴァーチャルリアリティにてさまざまな影響についてシュミレーションを容易にすることが可能な遺跡地図を作成し、「方針の策定」を提示する。また、人工衛星画像、考古学データ、物理探査データ、GISデータを統合し、概知のみならず、未知の埋没遺跡に関して情報を組み込む予定である。これにより、例えば将来のインフラ整備の提案に関しても、遺跡に与える影響を最小に留めることが可能になる。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ 早稲田大学エジプト学研究所（編）2001『アブ・シール南 [I]』、鶴山堂.
- ・ 公開シンポジウム「エジプトを護る」実行委員会（編）2006『エジプトを護る—保存の世紀を迎えて：文化遺産保存の実践と今後—』、アケト出版
- ・ S. Yoshimura and N. Kawai 2007 “A new early Old Kingdom layered stone structure at Northwest Saqqara,” M. Bárta (ed.), *Old Kingdom Art and Archaeology: Proceedings of the Conference, Prague, May 31 – June 4, 2004*, Academy of Science of the Czech Republic, Prague.

【研究期間】 平成19年度—23年度

【研究経費】 18,000,000 円
(19年度直接経費)

【ホームページアドレス】

<http://www.waseda.jp/prj-egypt/index-j.html>